

序章 報告書のねらいと調査概要

1. 報告書のねらい

昨今、子育て中の親が、育児に関する不安やストレス、子育てと仕事の両立の困難さ等の問題を抱えるケースが多くなっている。また、子ども同士あるいは地域の大人たちと関わりながら、子どもが安心して遊び、学ぶことが困難な状況になってきている。さらに、社会全体として少子化が取り沙汰されている。1990年代中頃から、このような子ども・子育てに関わる問題の解決を私的な問題として個々の家庭にのみ任せるのではなく、子どもを産み・育てやすく、そして子どもが育ちやすい環境づくりを地域社会全体で担っていこうという姿勢が強まってきている。こうしたことを受け、各市町村において、行政だけではなく、市民レベルでも様々な取り組みが行われている。

特定の地域をベースにした子育て支援に関わるボランティアな団体・グループの活動は、現在、活発に行われつつある。『平成17年度市民活動団体基本調査報告書』（内閣府国民生活局2006）によれば、NPO法人を取得している団体のうち、「子どもの健全育成を図る活動」に特に力を入れている団体は23.3%となっている。この数値は特に力を入れている活動分野のなかで、「保健、医療または福祉の増進を図る活動」（39.2%）について2番目に高いものである。また、子育て支援に関わる団体・グループは、同じ「親」の立場である人々によってつくられることが多く、その点で、利用者である親のニーズに即するサービスを提供しうると思われる。これらの点で、子ども・子育て支援サービスでは、市民による活動が重要になってきていると言えよう。

そこで、本報告書では、地域における市民の子育て支援活動を取り上げ、その特性と活動基盤を探ることをねらいとした。その理由は、ひとつには、子育て中の人や、子育て支援団体・グループのメンバー、今後子育て支援活動に携わろうと考えている人たちが活動していくためのヒントを得るためである。もうひとつには、地域における子ども・子育て支援体制づくりにおける子ども・子育て支援団体・グループの役割と課題を探る手がかりを得るためである。なお、事例として取り上げる団体・グループは、2005年度及び2006年度に「財団法人あしたの日本を創る協会」の助成を受けた子育て支援活動モデル集団（少子化に対応する地域活動推進事業・内閣府委嘱事業）である。

2. 調査の概要

本調査では、2005年度及び2006年度に子育て支援活動モデル集団（「財団法人あしたの日本を創る協会」の助成事業）となった48団体から10団体を選び、インタビュー調査を実施した。団体の選定では、子育て支援活動モデル集団の申請・報告書である事業実施計画書と事業実施報告書を手がかりにした。事例で取り上げる10団体には、活動内容、団体規模、地域の点で、できるだけ多様なタイプが入るように考慮した。また、企画委員が強く関心を持った団体も含まれている。なお、実査日程等の都合上、やむを得ず、調査対象から外した団体があったことも記しておきたい。

インタビュー調査の対象・日時・場所に関しては、表1の通りである。主な質問内容は、発足の契機、その後の経過、活動・運営の実際及び背景などである。なお、インタビュー調査に

先立ち、団体概要に関する質問紙調査票を郵送またはE-mailで送り、回答してもらっている。また、聞き取り調査には、企画委員が2名と「あしたの日本を創る協会」の事務局員1名が同行し、多角的に情報収集できるように配慮した。

表1 インタビュー調査の対象・日時・場所

	調査対象:団体名	活動拠点	調査日時	調査場所	担当
1	NPO法人あきた子どもネット	秋田県秋田市	2006年9月13日 9時半～12時半	秋田市寺内地区 コミュニティセンター	遠藤・渡辺・ 峯
2	子育て応援Seed	秋田県秋田市	2006年9月12日 13時半～15時半	秋田県ゆとり生活創造 センター「遊学舎」	遠藤・渡辺・ 峯
3	胆江地域子育てサポートネット ワーク わらしやんど	岩手県奥州市・金ヶ崎町	2006年9月19日 13時半～16時半	奥州市水沢地域交流館 アスパア	丹治・角替・ 峯
4	NPO法人 みやぎ・せんだい子どもの丘	宮城県仙台市	2006年9月20日 14時半～17時半	仙台市岩切児童館	丹治・角替・ 峯
5	NPO法人きらら	東京都小平市	2006年9月4日 10時半～12時半	都宮津田町1丁目ア パート集会所	石井・遠藤・ 角替・峯
6	ビーンズ	東京都小平市・国分寺市	2006年10月13日 10時～12時	国分寺神明宮 地域自治会集会所	石井・相良・ 渡辺・藤田
7	ココロお話し会	静岡県富士市	2006年9月26日 9時半～12時	富士市富士南公民館	丹治・角替・ 峯
8	子育て支援の会 ひらがなくらぶ	静岡県浜松市	2006年9月25日 13時～16時	コープ入野店	丹治・角替・ 峯
9	子育てサークルひまわり	兵庫県神戸市須磨区	2006年8月31日 13時半～15時半	北須磨団地自治会館	相良・渡辺・ 藤田
10	NPO法人子ども達の環境を考 える ひこうせん	岡山県備前市	2006年9月1日 9時～12時	備前市香登公民館	相良・渡辺・ 藤田

各団体にはインタビュー調査では、お忙しいなか、長時間おつきあい頂き、深く感謝致します。この場を借りて、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

3. 事例に関する説明

本報告書は、10団体の活動事例集からなる。ひとつの章につき、1団体を紹介している。ここでは、本報告書で取り上げた事例に関していくつか説明を加えておきたい。

事例全体を通じて、子ども・子育て支援活動を行っている団体・グループは、地域における子育て支援体制づくりにおいて「橋渡し」の役割を担っていると感じられた。同時に、この「橋渡し」の役割を果たすことが団体・グループの課題にもなっていると言えよう。団体・グループには、支援活動を通じて、子育て当事者である親や子どもの声が集まってくる。言い換えれば、子ども・子育て支援活動を行っている団体・グループは、今、その地域の子育てや子どもの状況を一番リアルに受け止めているのである。それ故、行政や他の団体・グループ、地域の人々等にそうした声や実態を伝えつなげていくことで、団体・グループは地域の実情に即した支援体制をつくることに貢献できると考えられる。また、若者や子育て家庭の労働環境や少子化による問題といった、当該団体・グループだけでは解決できないような課題に対し、「橋渡し」を通じて、企業や関係機関等に働きかけていくための手がかりを得ることもできよう。さらに、子育て当事者の親や子どもの声を代弁していくことを通じて、団体・グループの活動が理解され、地域からのサポートを得られやすくなる。活動基盤が弱い団体・グループにとって、こうしたサポートは貴重な資源となりうるであろう（現在各地の、子ども・子育て支援団

体・グループを核にしたネットワーク化¹⁾の動きは、このようなことを背景にしていると思われる)。

とはいえ、事例を取り上げる際に多様なタイプの団体を選んでいることもあり、事例全体を通して、ひとつのモデルにまとめることは難しいものである。子どもの成長に、また親としての大人の成長に少しでも手を貸したい、地域の子ども・子育ての環境を今よりも良いものにするために活動したい、という子ども・子育てに関わる団体・グループの人たちの思いは共通している。しかし、それをどう具体的に実現するのか、その方法は千差万別である。もう少し言えば、その多様性こそが、地域における子ども・子育ての支援を豊かにするものであり、必要なことであると思われる。子どもの成長や親の生活の変化により必要となる支援は変わってくる。その都度、子どもやその親が自分に必要と思われるものを選択するためには、多様な支援が求められよう。また、子どもの育ちを支える環境を整えるには、様々な分野での活動が必要となろう。さらにいえば、地域の事情によって、必要な活動や団体の課題も変わってくる。したがって、多様な姿の中から、それぞれの地域の実情や、自らの団体の状況に照らし合わせ、参考になるところを読み取って頂ければ幸いである。

各事例を参考にする際に、手がかりとなりそうなキーワードを紹介しておくことにしよう。支援活動に関わるグループやボランティアが、子育てサークルを前身に持つ、またはその経験者であることが見受けられる。子育てサークルから子育て支援グループへと展開する過程について紹介した事例は、「子育て応援Seed」(第2章)と「子育てサークルひまわり」(第9章)である。

親育ての視点から行われる母親の学びの場づくりに関しては、「ビーンズ」(第6章)と「NPO法人子ども達の環境を考える ひこうせん」(第10章)が該当する。

他の機関・団体・グループの活動をサポートしている子育て支援団体の事例として、「胆江地域子育てサポートネットワーク わらしゃんど」(第3章)が挙げられる。

子育て支援活動に取り組む団体の多くは、1、2種類の支援を小規模に行っているものである。そうしたなかで、市全域を対象に、多種多様な活動を行い、市内の子育て支援を牽引している団体である。「NPO法人きらら」(第5章)、「子育て支援の会 ひらがなくらぶ」(第8章)、「NPO法人子ども達の環境を考える ひこうせん」があてはまる。

昨今、話題になっている指定管理者制度に関わる事例として、「NPO法人みやぎ・せんだい子どもの丘」(第4章)が挙げられる。

子ども・子育て支援に関わる団体・グループのネットワーク構築に関しては、「NPO法人あきた子どもネット」(第1章)や「NPO法人みやぎ・せんだい子どもの丘」で見受けられる。地域からの助力を受けたり、地域の人々の交流機会を多く持っていたりと、地域との関わりについて言及している事例には、「コロコロおはなし会」(第7章)、「NPO法人きらら」、「子育てサークルひまわり」がある。

なお、事例の執筆に関しては、担当者の関心の在処により、事例の特性や活動基盤の描き方にはばらつきが見られる。その点はどうかご容赦いただきたい。最後に、ここで取り上げている団体・グループの表記について補足をおきたい。本報告書では、子育て中の親子(その多くは乳幼児を持つ母親)が集まり、子育て仲間との交流を目的に活動している団体・グループを「子育てサークル」または「育児サークル」と表記している。それに対して、主に就学前の子どもとその親を支援するために活動している団体・グループを「子育て支援団体・グループ」

と表記している。支援の対象を小学生以上の子どもを含めている場合には、表記に「子ども」を付け足している。

(渡辺恵)

<注>

- 1) 子ども・子育て支援に関わるネットワーク化は様々な次元で行われている。ネットワークの対象という点では、親同士をつなぐこと、支援者同士をつなぐこと、行政、NPO 及び地域住民をつなぐことなどが行われている。また、規模の点でも、県レベル、市町村レベル、小学校区レベルなどでのネットワーク化が進められている。

<参考資料>

内閣府国民生活局『平成 17 年度市民活動団体基本調査報告書』2006 年 5 月

<執筆分担>

- ・石井 久雄：第 5 章
- ・遠藤 宏美：第 2 章
- ・相良 亜希：第 6 章、第 10 章
- ・丹治 恭子：第 3 章、第 8 章
- ・角替 弘規：第 4 章、第 7 章
- ・渡辺 恵：序章、第 1 章、第 9 章、編集